

神戸だより

台湾交流支援の会 2018.08発行 Vol.10

< 神戸の今 : みなとこうべ海上花火大会2018 > 小高 功



今年の夏、埼玉県熊谷市で国内観測史上最高の41.1度が観測されました。そして連日35度越えの日が続き、「危険な気温」という新しい言葉を耳にするようになりました。そんな中、8月4日19時30分から第48回「みなとこうべ海上花火大会」が開かれました。神戸港内に設けられた複数の海上舞台から、1時間に1万5千発の花火が打ち上げられる関西最大規模の花火大会です。

私も友人のお誘いで会場内の絶好地にあるマンションに参りました。毎年30万人の観客が集まるとのことで、会場までの最寄り駅は、たくさんのごった返し、海辺の観覧場所までの道も、当日皇太子夫妻の近隣ホテル滞在もあって厳重な交通規制が敷かれ、おおきな遠回りを余儀なくされました。それでも家族ずれの子供たちは親に抱き着きながら急いでいます。若い女性はこの時とばかり髪をあげ、すっきりした浴衣姿で「かわいっい〜」女性姿を男性に見せています。花火大会開始時には、海辺の何処も人で一杯、海上も警備の船で埋まっております。

花火の進行は5つに別れそれぞれテーマを持っているようですが、そんなことには全く気づかず、ただただそのダイナミックさに驚き、歓声を挙げました。



< 日本の伝統的な武道 弓道 > 高橋 幹夫

弓道は弓(和弓)で矢を射て的に当てる日本古来の武道で、弓道の衣装(胴着、袴、)を着て足袋を履き道場に入場し、矢を弓につがえ(矢を弓の弦にセットする)弓を引き矢を放つ一連の所作(動作)を通し心身の鍛錬をする日本の武道です。矢を的に当てる事が目的ではなくその過程を通し自分自身を鍛える事が本来の目的とされています。私が弓道に入門して3か月間は道場内での歩き方、座り方、立ち方の稽古だけです。座り方には正座と跪座(きざ)があります。正座は膝を曲げて踵の上に尻を乗せて座る日本人の昔からの座り方で、日本人は昔から畳の生活をしてきた為にこの座り方をしていました。しかし戦後、椅子とテーブルの生活様式に変わり正座は古い文化となってしまいました。

弓道に入門しこの正座がきつく3分も正座していると足がしびれ立ち上がれなくなります。



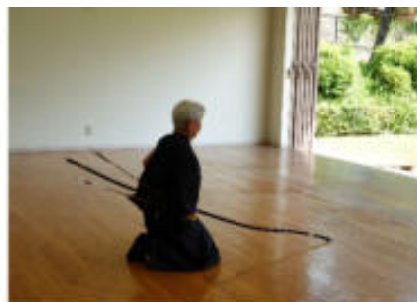
しかし今は30分も正座が出来るようになりました。一方で跪座はつま先を立てて踵の上に尻を乗せる座り方です。これは昔の武士がいざ敵が来た時にすぐ立ち上げられるように構えた座り方と言われています。

さて前置きはこのくらいにして弓道の話をしてします。

的までの距離は28m的の大きさは36cm。弓は強さが強弱色々あり若者、お年寄り、女性それぞれに合った弓があります。従って女性も年配の方も十分弓道を楽しむ事ができます。今私の所属している弓道場には90歳を超える男性、女性がおり、元気に弓を引いています。

弓道は美的であり芸術的であり神聖で昔から祭祀(祭典)に用いられます。これは西洋の弓と大きく違う点です。私が弓を始めてまだ半年ですが道場に入場して矢を放つまでの凜とした所作、ふるまいにはいつも心身が引き締まる思いです。弓道の稽古をすると礼儀、姿勢が正しくなり心身ともに健康になるような気がします。

弓道の基本的精神を一言披露します「射は仁の道なり。射は正しく己に求む。己を正しくして後に発す。発して当たらない時はすなわち己に勝つものを怨みず。返りてこれを己に求むるのみ」要するに、弓は人の道である。弓を射る事は真実を自分に求める事。その後矢を放つ。的に当たらなかった時は当たった人を怨むのではなく当たらない自分を反省せよという事です。弓道の話をするともだまだ語り足りないのですが今回はこの程度に収めまた機会があればお話ししたいと思います。



< 夏越の祓い(なごしのはらい) > 武藤 龍雄

毎年、夏の6月30日から7月末ごろまでにかけて、各地の神社で「夏越の祓い」という行事が行われます。古くからの神事で、神戸では有名な三社、湊川神社で6月30日、生田神社で7月15日、長田神社で7月17日に行われました。「夏越(なごし)」というのは、新年からおよそ半年が経過して疫病が蔓延しやすいこの時期に無事に夏を乗り切る、という意味を持っています。「祓い(はらい)」とは、日々の生活の中で、知らずしらずのうちに身についた罪やケガレを祓い清めて、無病息災をお祈りするという意味です。

神社では、「大祓神事(おおはらいしんじ)」と、茅の輪(ちのわ)をくぐる事により、悪疫退散を願う「茅の輪神事」とが行われます。

「茅の輪」は、青々と伸び生命力があるとされている茅(ちがや)という草に似た草を束ねて2メートルほどの大きな輪にしたものです。

「人形(ひとがた)」は12センチぐらいの切り紙で、氏名と年齢を書き、神社にお祓いを託すものです。この人形で身体をなでてから3度息を吹きかけ、神社に納めます。



(湊川神社 茅の輪ぐりの様子)



(茅の輪神事)



(ひとがた)